

キララ新聞 No. 40

発行 キララ新聞社
発行責任者 秋山 眞兄
山梨県北社市白州町横手 2259
白州郷牧場内

TEL:0551-35-0131・4520
FAX:0551-35-0132

「春の学校報告」

2008 年 4 月 20 日

春の学校が無事に終了しました。

参加人数は小学生 7 人（男の子 4 人、女の子 3 人）、
新高校生 1 人。

2 日目の午後から雨も降りましたが、翌日の昼には
止み、プログラムもほぼ予定通り行われ、きららのス
タッフの他、村のひでこさん、かしこさん、そしてお
手伝い頂いた坂元さん達にも支えられ、無事に終わる
ことができました。最終日のプログラムでは、子供達
のアンケート調査をしました。

この企画は今後も続けていければと思います。

1 日目 晴れ

*レタス定植

牧場スタッフとみんなでレタスを植えました。
学校期間中に約 1 万カブのレタスを定植しました。
元気に美味しく育ってと願うばかりです。



*作務

今回の作務はずっと採卵でした。

鶏舎の中に入り採卵していると、足元をひっきりな
しにつつき、肩に乗ってくるニワトリもいます。

子ども達は最初、ビクビクしていましたが、日を追
うごとに気にしなくなる子や、ニワトリが寄ってこな
いように、「引きつけ役」と「採卵役」の 2 手にわかれ
て採卵する子供達もいました。

*夕食

初日恒例のカレーです。ほうれん草とジャガイモたっ
ぷのカレーです。

カレーの鍋も、お米の釜もすぐに底をつきます。

*校長講座「てんとう虫の話」

「てんとう虫は何で『てんとう虫』と言うのか」、「て
んとう虫には肉食と菌食と草食がいる」など、てんと
う虫についての説明から、アブラムシを食べるてんと
う虫の種類の写真を観て、翌日以降のてんとう虫の採
取に役に立ったのではないのでしょうか？

と思いきや翌日は雨模様で、あまり捕まえることが
できなかったみたいです。残念。



*白州シアター

「千と千尋の神隠し」

DVD で観たと言う子供もいましたが、大画面で観る
とまた違いました。

この後に観た「もののけ姫」もそうですが、白州の
自然とダブらせて観ていたようで、「あの森にもののけ
がいるかな?」とか、「白州はきれいな水があるから「こ
だま」がいっぱいいるよ」など、翌日以降の子供達の
会話の中に出て来ていました。

2日目 曇りのち雨

＊野草採り、てんとう虫採り

村のおばさん「ヒデコさん」と「カシコさん」の指導のもと、ヨモギ、土筆、落の薑、野ぜり、クレソンなどをたくさん採りました。



＊レタス定植

昨日の続きです。途中で雨が降り出して切り上げました。

＊野草料理、ほうとう作り

夕方、再度ヒデコさん、カシコさんに来て頂き、一緒にホウトウ鍋を作りました。

子供達も一生懸命になってホウトウを打ち、女の子は採ってきた野草の掃除もしました。

野草は天ぷらやお浸し、クレソンのサラダ、土筆の卵とじなど、春の料理が並び、子供達はホウトウを何杯もおかわりしていました。

＊白州シアター

「もののけ姫」(前半)

3日目 雨のち晴れ

＊草取り～雑にエサやり

作務を終えて、花の種まきをハウスで準備。

ハウスに生えている草やサンチュを抜いて、雑にあげました。子供達は雑にエサをやりつつ追いかけてまわして、雑も少しお疲れでした。

この雑たちもあと6ヶ月もすれば卵を生み始めるでしょう。

＊花の種まき(女子)、セリ田遊び(男子)

女の子は花の苗を作るためにポットに種まきをしました。今月末には芽がでるのでしょうか？

5月の連休にある「身に沁みて白州」の時に苗を定植できればいいのですが。



冬の学校ではスケートができるほど凍っていたセリ田もすっかり春模様。

裸足で入ると気持ちいいぐらいにふかふかした泥の感触が、足の裏に伝わってきます。

蛙の卵も数え切れないほどたくさん見つけました。

春の学校が終わった3～4日後にはたくさんのオタマジャクシが元気に泳いでました。

＊餅つき

子供達は重いキネを担いで精一杯餅つき。

前日に採ったヨモギを混ぜ込んで、ヨモギ餅もつきました。その他に、黒ゴマ餅、キナコ餅、雑煮にして食べました。

＊餃子作り(春の餃子、海老餃子、肉餃子)

冬の学校でのコロッケ作りの第2弾、餃子を作りました。3種類の餃子を作り、中にはチーズ入りやチョコレート入り(これはかなり不評)もあり、作った数は350個です。



＊甘酒作り

旧暦で読むと「ひな祭り」は4月8日、少し早いですが、女の子は見田さんの指導のもと、甘酒を仕込みました。

＊白州シアター

「もののけ姫」(後半)

4日目 晴れ

＊シイタケ植菌

村でシイタケを栽培している「宮川さん」指導のもと、原木に穴をあけて菌をを埋め込んでいく。

500本近くの原木に植菌しました。収穫は早ければ秋に始まるそうです。

＊レタス定植(～森の探検!?)

2日目に雨で中断したレタスの定植の続き。仕事を放り投げた男の子達は、森の中へ探検に。探検している時の男の子4人のチームワークは抜群で、これが他の作業に反映されないものかと。

遊びに夢中な男の子、まじめに作業をする女の子、このような光景が5日間続きました。トホホ

＊甘酒

作業の後、前日に仕込んだ甘酒をみんなで飲みました。自家製の麴と白州米、白州の名水で仕込んだ、まろやかな味わいの甘酒です。

＊温泉

近くにある「尾白の湯」に行きました。

＊夕食

大阪から来られた阪本さんと坂本さんがお好み焼きとねぎ焼きを、韓国からボランティアで参加した奇さんがチヂミを作ってくれました。皆でいただいている時に、一昨年まで研修に来ていたチェさんが再度研修生として牧場に到着しました。子供たちとも久しぶりの再会です。

＊子供アンケート

私達スタッフや子供達、または子供たち同士は「きららの学校」で出会い、共に生活をつくり、学び、はたらき、あそぶ中でお互いを知り合い、理解してきていました。しかしながら、実は私たちは彼らの日常をほとんど知りません。

ここであらためて、今後の活動のためにも、子供達の普段の生活や習慣などをまず知ろう、という意のもとにこの企画を考えました。

どの子がどんな名前の学校に行っていて、家からどのくらいの登校時間がかかり、近所の子たちや家族とどんな交流の仕方をしているのか、スタッフが子供達に目を注ぐ、意を注ぐ習慣を得るためにも大事なことから考えます。

まず最初に「名前」「住んでいるところ」「学校名」「家族構成」「学校で楽しいことつまらないこと」とあらかじめ用意した質問用紙を配り、記入してもらいました。次に自分で記入したものを手に自己紹介をしました。

自己紹介は子供達だけではなく、大人達もしました。

子供達は大人達よりもしっかりとした感じの口調で自己紹介をしていた印象が残りました。

その後に大人達から子供達に質問していき、ひとりひとりに話を聞きました。

・朝食は毎日食べてる？

・食事は誰が作ってくれるの？

・食事は誰と食べるの？

・学校で流行っているものは何？

・先生って偉いと思う？

・友達と何して遊んでいるの？

・休みの日は家族と何処へ出かける？

・授業中にクラスで立ち歩いたり、騒いだりしている子供達はいる？ などの質問。

特に驚くべき答えなどはありませんでしたが、子供達は自分達の生活について堂々とハキハキと素直に答えてくれました。

今回はもう少し深く突っ込んで、話し合い(議論)のできる形にしていければ、面白くなっていくのではないかなと考えます。

＊白州シアター

NHK BS ドキュメンタリー「娘たちよ 大地に咲き誇れ ～トルコ少女への教育支援～」

キララの学校常連の中里三姉妹のお母さんである中里雅子さんからの推薦です。中里さんご自身がナレーションをされています。トルコでは昔からの風習と貧困のため学校に行けない少女たちが大勢います。小学校を終えるころには家族を支えるために働いたり、親の決めた結婚先に嫁いでいくのです。学校に行って勉強したいのに学校へ行けない少女たちを支援する奨学金を設立した女性がいいます。トゥルキャン・サイランさん。サイランさんと少女たちを取材したドキュメンタリーです。学校へ行けるのが当たり前なのに学校へ行かない子供達が増えている日本、学ぶとはどういうことなのか考えさせられるドキュメンタリーでした。

最終日 晴れ

＊掃除、作文

＊薪作り

去年のきらら ML でも報告がありましたが、研修センター隣の梅林を借りることになり、先月、村のおじさん達が剪定をしてくれました。

その残木を薪にして、子供達がそれを図書館の縁の下や民家の壁際に運びました。

タイに行ってきました

高草木里香

2月初め、BMW技術を導入しているバナナ生産者を訪ね、タイに行ってきました。タイの人たちも何度も白州を訪れ、交流を重ねてきました。前回訪ねたのが2000年ごろ、タイ初のBMW生物活性水デモプラントが完成した後のことでした。循環型農業と、良質な堆肥によるバナナ生産を目指して取り組みが始まった堆肥センターでは、堆肥が順調に製造されていました。今では利用が進み、堆肥が足りなくなっているということでした。また、試作の菌体が完成していました。白州の菌体と同じ匂いがして、発酵は世界共通なのかと感激してしまいました。バナナの圃場では、土壌分析が行われ、品質の向上、甘味の追求がなされていました。BMW技術が着実に地域に根付き始めていることが感じられました。バナナの出荷場は、一日8トンものバナナを手で水洗いし、乾燥し、出荷できる、広大で立派な施設でした。始まった当初の施設が隣接されていましたが、お風呂を改造したような規模でした。皆の成果を、皆で共同して使える形にしており、白州のパックセンターもがんばっていいと思いました。

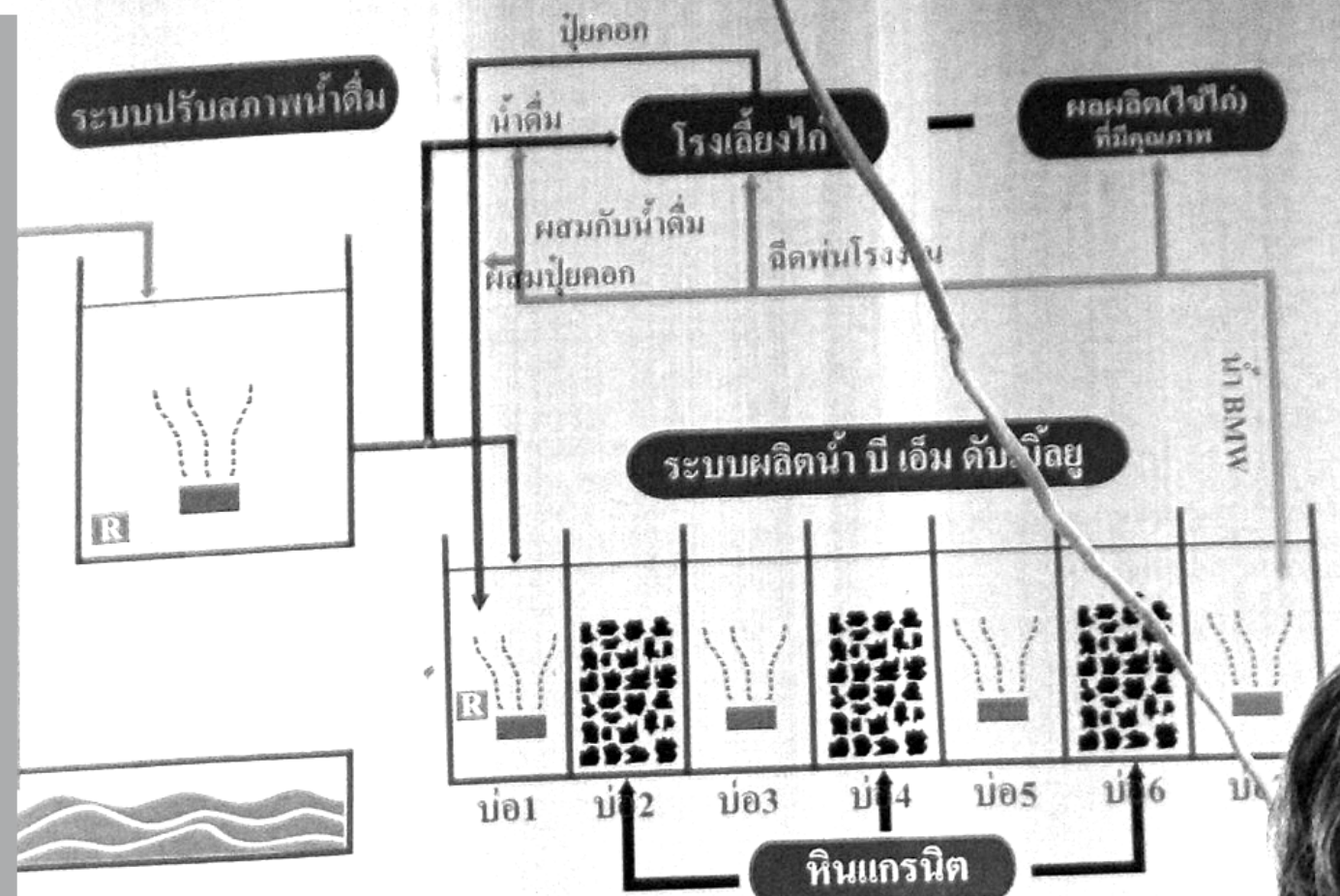
個々の農家や農協の努力が着実に実を結んでいることを教えられた今回の訪問でしたが、個々の農家では太刀打ちできない廃業寸前の危機に直面していました。

養豚農家を訪れた時のことでした。

気持ちよさそうに眠る仔猪たち。豚舎には臭いもなく、ハエもおらず、肌もつやつやです。BMW技術を導入する前は、ハエがたくさんいて、ストレスが多く、眠れず、事故が多かったのが、技術導入後は、仔猪の事故が減り、増体率も上がり、生産が安定。一時は100頭以上いたそうです。それが今は10頭くらいしかいませんでした。

仕入れる仔猪と餌の価格が高騰し、さらには出荷する豚の価格が暴落しているためということでした。餌と仔猪の供給を支配する巨大資本が、屠場も支配していて、入り口と出口両方から農民を締め上げていたのです。タイでは露骨ですが、日本でだって向かっていく方向は同じ。見えにくくなっているけれど、日本もいずれこうなるのだろーと思いました。

ศูนย์สาธิตเทคโนโลยี บี เอ็ม ดีบีแอล (BMW TECHNOLOGY DEMONSTION PLANT)



タイは急速に変わっていました。私が前回訪問した時は、バンコクでは、建築中のビルが工事の途中で放置されていたりと、アジア通貨危機の傷跡がまだまだ生々しい時でした。しかし、今回行くと、新空港からバンコク市内に向かう新しい道路沿いには、「TOSHIBA」「MITUBISHI」「KYOCERA」等の日本のメーカーの大きな看板が次々と現れ、新築の分譲住宅が目をはきます。街には新しいビルが立ち並び、道路が整備され、走っているのは新車ばかり。バナナ産地に向かう道路沿いにはガソリンスタンドと、コンビニ、コーヒーショップ、レストラン、そして驚くことに銀行のATMがセットで作られています。(コンビニに銀行ATMが入ったのは白州だってつい最近のことなのに。)それが、数キロごとに同じパターンで配置されている。コンビニは、日本と同じような棚が設置され、スナックや、ペットボトル飲料、日用雑貨がところせましと並べられている。POSレジだし、レジパネルではCMが流れてキャラクターが踊っているし、サンドイッチとかの惣菜も売っている。加工品がずいぶん増えたように思います。資本の回転を求めて世界中からお金が押し寄せてくるグローバル化っていうのはこういうことなのかと、遅ればせながらわかりました。それは地域の暮らしとか文化とかほとんど関係ない落下傘でした。

急速急速っていいすぎかもしれませんが、2000年ごろの日本の風景と、2008年の日本の風景の変化を考えてみたら、やはり急速です。

今回、印象に残ったのが、子供と大人がいっしょにいるたくさんのシーンです。朝、夕、子供たちをバイクに乗せて、送り迎えする、通勤中のお父さん、お母さん。列をなして道路を縦走していきます。家族一丸となって学校に向かって行くという様子でした。子守をしながら市場で品物売る父さんやお母さん。子供をかたわらに座らせて夕涼みする人たち。加工食品がコンビニに増えたといっても、市場には豊富な食材と買い物をするお母さんたちの姿があるし、昔ながらの形式の食堂もあります。

乗り物とか形は変わってもずっとこうしてきたんじゃないかと思われる風景でした。

これでいいんだよなという言葉が漏れました。

帰国して極寒の夜の白州に戻ると、農場スタッフのみんなが、あつあつの味噌汁と納豆を食べさせてくれました。暖かかったです。



東京農業大学
2年生

クダ君がやってきた。 坂田 裕美



出身はジンバブエ。この春、東京農業大学の2年生になるクダ君が研修生として農場にやってきました。

慣れない寒さの中いきなり泣きが入ったり（笑）、平飼いのニワトリたちに興奮したり、野菜のパックや、サンチュの収穫やりに汗したり、ひととおり農場の仕事を体験。大笑いや大騒ぎしながら過ごした10日間は、私たち農場スタッフにとっても印象深いものでした。

ジンバブエは人口約1千3百万、面積は日本よりやや大きいぐらいの国。1980年にイギリスより独立しました。しかし、独立した今もなお、人口の1%ほどの白人に国の富のほとんどが握られており、失業率は90%とのこと（!）。今の国の現状は政治がよくない、でも、ジンバブエの国民も働こうと意識しないことにも問題があるとクダ君は話してくれました。

大学では農業経済を専攻し、将来はジンバブエを豊かな国にしたい、農業は国が生きてゆくうえで大切な分野である、とも語ってくれました。

自分の気持ちや夢を、語ったり、素直になったり、そのキャッチボール。そうすると人と人の距離はぐっと縮まる。地球のどこにいたって……。そんなことを思ったりしました。

さて、私は自分のこと、周りの人たちのこと、将来のこと、にほんのこと、どれくらい人に伝えることができるのだろう？

それができる人は、年齢に関係なくステキです。



ジンバブエ共和国



ひよこ、すくすく、のびのびと育っています。 高草木 里香



やってきたばかりのひよこたち



生まれてちょうど20日くらいのひよこ

2月8日、1000羽のひよこがやってきました。

農場スタッフの謙介君と、研修生の優さんがお母さんとなり、500羽ずつ担当して、世話をしています。

生まれた当日、すぐに農場にやってきた、小さな命。卵の殻の中におさまってしまうほどの小さな体です。見ていると時間が経つのを忘れてしまうほどの愛くるしい姿ですが、それほどに、弱い存在でもある彼らは、ちょっとしたことで簡単に命を落としてしまいます。ですからお母さんの2人は、本当に大変です。着いた初日はまず、親鳥の羽の中にひよこがいるような環境をつくれるようにします。親鳥の温度は寒くないか？暑すぎないか？餌は？水は足りているか？想像力をフル回転させて、ひよこの身になって心をくだし、一日に何度もひよこ舎に足を運びます。



きらら春の学校のときには、かなり大きくなっていました。（3月31日）



堂々とした姿はもうひよこにはみえません。体重も600グラム以上です。（4月16日）

白州では、ひよこの時からたくさんの緑餌をあげて育てますが、夜になると、貯蔵しておいた白菜を、ひよこの口のサイズに刻んで、翌朝のために用意している2人の姿が毎晩の恒例となりました。

2月末現在、生まれて20日をすぎたところのひよこたち。すごいスピードで大きくなっています。まだまだ黄色の産毛におおわれていますが、羽がきれいにそろい、ひよこ用の小さな止まり木で気持ちよさそうに休んでいます。高さ50センチはある仕切り枠を飛び越えて、脱走するもの多数。お母さんを困らせているようです。高いところへ行きたくてやまないといった様子です。この飛び歩きたい時期に、飛び歩かせることで、誰に教わることもなく自然に木に止まることを覚えてしまいます。これが、100日を過ぎると、止まり木にとまることができなくなってしまいます。

人間の子供たちも同じなのではないかなと、考えてみたり、ひよこを見てると、つい、時間が経つのを忘れてしまうのです。

梅林の剪定をしました。 池原 謙介



昨年から借りることになった、研修センター横の梅林は、毎回遊びに来る子供達が勝手に入って走り回っていました。

地主さんは県内に居らず、年に何度か草刈に来るだけの遊休地で、それならば子供達のために遊びまわるところを作ろうと、牧場スタッフと村のおじさんたちで、梅林の手入れをすることになりました。

「桜切るバカ、梅切らぬバカ」という言葉があるくらい、梅の木は剪定してやると美しい佇まいになるそうです。

しかし、村のおじさんたちがチェーンソーで切っている姿は、どうみても適当な感じがするくらい、どんどん切っていくてしまうのですが、仕上がりはなぜか美しい姿になっているのです。これぞ熟練の技！！

私達には遠く及ばない、鍛錬の積み重ねなのです。

結局、丸三日かけて梅林は整理され、花は見事に咲き誇りました。

次は、梅の実が取れるのが楽しみです。

皆さん、梅酒と梅干、梅シロップの仕込みに来ませんか？

「身に沁みて白州」が ゴールデン・ウィーク GWに開催されます！

「身に沁みて白州」は、各季節に行われるキララの学校のようにプログラムなどは特にありません。白州郷牧場のスタッフと普段の生活を共にして、白州を身に沁みようというものです。

だいぶ暖かくなった白州で、春の学校でまいた花の種の移植や葉物野菜の収穫など「農」中心の生活です。

「身に沁みて白州」に参加する子供たちと 保護者のみなさまへ

集合 — 5月3日(土)午前9時

西国分寺駅改札入り口

解散 — 5月6日(火)午後5時頃

西国分寺駅改札入り口

※引率付きの電車移動になります。

持ち物: 5月3日のお昼ご飯、保険証のコピー、着替え、タオル、お泊まりセット、筆記用具、雑巾、水筒、長靴、軍手、帽子、雨の時のためのカッパ。

※ゲーム、漫画、お菓子、携帯電話は禁止です。

参加費

小学生 20,000 円 中高生 23,000 円

開催地の北杜市白州町で合流・解散する場合は、

小学生 17,000 円 中高生 18,000 円

参加費振込先

①山梨中央銀行 国分寺支店

普通口座 916410 キララ 見田由布子

②郵便振替口座

00200 - 4 - 95036 白州・キララの学校

参加申し込み

同封の申し込み用紙を、

白州森と水の里センター (FAX 0551-35-0132) まで FAX 送信してください。

●申し訳ありませんが、参加申し込みは FAX でのみお受けしています。

●お問い合わせ・緊急連絡は下記のいずれかで承ります。

・白州郷牧場 0551-35-4520

・白州森と水の里センター 0551-35-0131

●メールでのご連絡は、info@hakusyu.jp で承ります。(参加申し込みはご遠慮ください)

